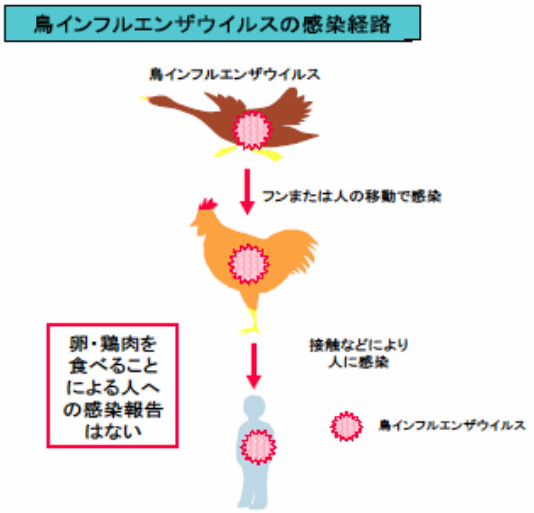
特 集　鳥インフルエンザ

今年に入って、アジア各国で鳥インフルエンザが発生し、鶏だけでなく、人にも感染し死者が出るまで拡大しています。牛のＢＳＥ問題なども含め、食の安全が叫ばれている中、京都府で人為的とも思える重大な事件が発生しました。鶏がバタバタ死んでいるにもかかわらず、鳥インフルエンザの検査も行わずに出荷していたという事件です。この事件は当事者である養鶏場の会長が自殺し、社長が逮捕されるという事態に発展しました。

いたずらに不安をかき立てるような報道もあり、わからないことも多いと思われますので、正しい知識を知ってもらうために、現在の状況もふまえ、鳥インフルエンザについてお伝えします。

鳥インフルエンザとは…鳥類のインフルエンザは「鳥インフルエンザ」と呼ばれる、ヒトのインフルエンザウイルスとは別の A 型インフルエンザウイルスの感染症です。このうち感染した鳥が死亡したり、全身症状を発症したりと、特に強い病原性を示すものを「高病原性鳥インフルエンザ」と呼びます。1878 年にイタリアで初めて確認され、鶏、七面鳥、うずら等が感染すると、全身症状をおこし、神経症状（首曲がり、元気消失等）、呼吸器症状、消化器症状（下痢、食欲減退等）等が現れ、鳥類が大量に死亡することもまれではありません。

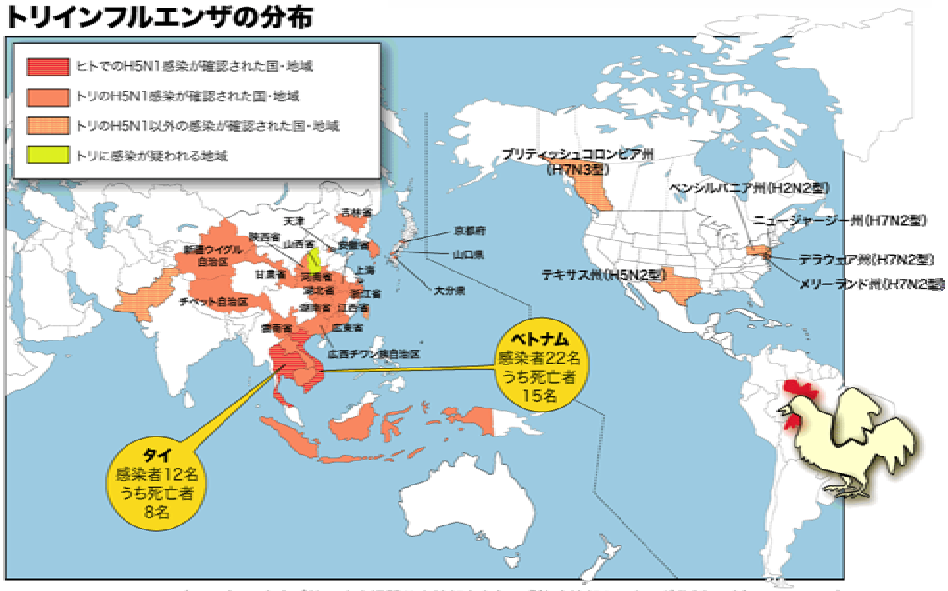
高病原性鳥インフルエンザは食品を介してヒトに感染するか…高病原性鳥インフルエンザが、食品を介してヒトに感染する可能性は、現時点ではほとんどないものと考えられています。実際、食品（鶏卵、鶏肉）を食べることにより、ヒトに感染した例は、世界的にも報告されていません。インフルエンザウイルスは熱に弱く、WHO（世界保健機構）によると、ウイルスは適切な加熱により死滅するとされており、一般的な方法として、食品の中心温度を７０℃に達するよう加熱することを推奨しています。万一食品中にウイルスが存在したとしても、**食品を十分に加熱調理して食べれば感染の心配はありません**。また、感染経路にかかわらず、ヒトが高病原性鳥インフルエンザに感染するリスクは、鳥に比べ極めて小さいと考えられています。それは、ヒトと鳥では種が異なるため、いわゆる「種の壁」（種の感受性の相違）があるためと考えられています。わずかですが、香港、タイ、ベトナムなどで、生きた鳥と密接に接触することによりヒトに感染した例（３２例）が報告されていますが、**ヒトからヒトへ移ったことが確認された例はありません**。



飼っている鳥が死んでしまった場合…鳥は生き物ですから、人と同じようにいつかは死んでしまいます。そして、その原因も様々ですから、鳥が死んだからといって直ちに鳥インフルエンザを疑う必要はありません。鳥インフルエンザにかかった鶏は、次々に死んでいくということが知られていますので、原因が分からないまま、鳥が次々に連続して死んでしまうということがない限り、鳥インフルエンザを心配する必要はありません。原因が分からないまま、鳥が連続して死んでしまったという場合には、その鳥に素手で触ったり、土に埋めたりせずに、なるべく早く、お近くの獣医師、家畜保健衛生所又は保健所にご相談下さい。

感染症情報センターのＨＰより

トリインフルエンザの分布



(WHOとOIEおよび他の政府機関公表情報をもとに感染症情報センターが作製：更新日 2004/3/18)